



2024年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年6月12日

上場会社名 株式会社JMホールディングス 上場取引所 東
コード番号 3539 URL <https://jm-holdings.co.jp/>
代表者(役職名) 代表取締役社長(氏名) 境 正博
問合せ先責任者(役職名) 常務取締役管理本部長(氏名) 前田 香織 (TEL) 03(6453)6810
四半期報告書提出予定日 2024年6月13日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無 ()

(百万円未満切捨て)

1. 2024年7月期第3四半期の連結業績(2023年8月1日~2024年4月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年7月期第3四半期	129,378	14.2	7,441	32.7	7,599	32.3	3,956	28.6
2023年7月期第3四半期	113,298	7.3	5,606	5.7	5,743	4.4	3,076	5.8

(注) 包括利益 2024年7月期第3四半期 4,167百万円(31.6%) 2023年7月期第3四半期 3,168百万円(7.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年7月期第3四半期	148.28	—
2023年7月期第3四半期	115.32	—

(注) 前連結会計年度末において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2023年7月期第3四半期連結累計期間に関連する四半期情報項目については、当該見直しが反映された後の金額を記載しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年7月期第3四半期	69,864	42,516	60.3
2023年7月期	65,571	39,416	59.5

(参考) 自己資本 2024年7月期第3四半期 42,102百万円 2023年7月期 39,030百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年7月期	—	20.00	—	20.00	40.00
2024年7月期	—	20.00	—	—	—
2024年7月期(予想)	—	—	—	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年7月期の連結業績予想(2023年8月1日~2024年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	169,000	9.2	7,700	6.3	7,840	5.7	4,740	7.3	177.67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2024年7月期3Q	26,679,500株	2023年7月期	26,679,500株
② 期末自己株式数	2024年7月期3Q	451株	2023年7月期	384株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2024年7月期3Q	26,679,099株	2023年7月期3Q	26,679,116株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、2023年3月1日に行われた株式会社スーパーみらべるとの企業結合について、前第3四半期連結累計期間に暫定的な会計処理を行っていましたが、前連結会計年度末に確定したため、前年同四半期連結累計期間との比較・分析にあたっては、暫定的な会計処理の確定による見直し後の金額を用いております。

(業績の状況)

当第3四半期連結累計期間(2023年8月1日～2024年4月30日)における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことにより、社会経済活動の正常化が進んだものの、ウクライナ情勢の長期化や中東情勢の緊迫化、原材料価格等の高騰や円安による物価の上昇により、景気の先行きは依然として不透明な状況で推移しております。

食品小売業界におきましては、人件費や物流費をはじめとした各種コストの上昇に加え、度重なる食料品の値上げが続けられたことにより消費者の節約志向、低価格志向が一層高まるなど、厳しい経営環境が続いております。

当第3四半期連結累計期間における経営成績は、スーパーマーケット事業、外食事業の既存店が順調に推移したこと、前期に出店した3店舗及び2023年3月より当社グループ入りした株式会社スーパーみらべるとの売上寄与により、売上高は129,378百万円と前年同四半期に比べ16,080百万円(14.2%)の増収、営業利益は7,441百万円と前年同四半期に比べ1,835百万円(32.7%)の増益、経常利益は7,599百万円と前年同四半期に比べ1,855百万円(32.3%)の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,956百万円と前年同四半期と比べて879百万円(28.6%)の増益となりました。

当社グループにおける事業セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(スーパーマーケット事業)

当社グループのスーパーマーケット事業は、精肉専門店の当社が、青果・鮮魚・惣菜の専門店をグループ化、合併していくことにより業容を拡大した経緯があり、各店舗内でそれぞれの専門性を活かすことで、一般的な食品スーパーとは一線を画した品揃えと特色のある売場を展開しております。

商品の販売につきましては、特定の商品を大量に陳列し、顧客へ商品をアピールすることで購買意欲を高める「異常値販売(単品大量販売)」を定期的を実施する他、加工物流センターでの大量かつ効率的な精肉加工に加え、店舗内においても必要に応じて精肉加工を行い、売れ筋に対応した商品の速やかな提供により販売機会ロスの削減に努めております。

また、ジャパンミート及び肉のハナマサにおいて、プライベートブランド商品などの独自の商品開発を行っております。品質・味・価格にこだわり開発した商品を各業態で展開することで、グループシナジーの最大化を図っております。

当社グループのスーパーマーケット事業は、6つの店舗業態と青果仲卸事業、米穀小売業で構成されております。

(a) 株式会社ジャパンミートが運営する大型商業施設内店舗「ジャパンミート生鮮館」

商圏が広く、集客力のある大型商業施設「ジョイフル本田」などにおいて17店舗展開しております。精肉売場を核とし、青果・鮮魚・惣菜の専門性を強調すること、顧客に幅広く支持されるような商品を売場に展開することで、ファミリー層を中心に楽しくお買い物ができる売場の構築に努めております。

(b) 株式会社ジャパンミートが運営する関東圏単独店舗「ジャパンミート卸売市場」、「パワーマーケット」、「食肉卸売センターMEAT Meet」

関東圏のロードサイドに「ジャパンミート卸売市場」12店舗、「パワーマーケット」3店舗、「食肉卸売センターMEAT Meet」4店舗を展開しております。これらは「ジャパンミート生鮮館」を小型化した単独店舗であります。生鮮食品の専門性を強調した店舗の特徴を活かし、品揃えや商品力において差別化を図っております。

(c) 株式会社花正が運営する都市型ホールセール「肉のハナマサ」

東京都内を中心に業務用スーパー「肉のハナマサ」などを55店舗展開しております。飲食店事業者のプロが日々の仕入先として利用できるよう商品を大容量で販売するとともに、「プロ仕様」というプライベート

ブランド商品を開発・展開することで特徴を明確にしつつ、一般家庭の顧客の買物需要にも応えられる品揃えをすることで、一般的なスーパーマーケットとは差別化された「都市型ホールセール」を運営しております。

(d)株式会社スーパーみらべるが運営する地域密着型食品スーパー「スーパーみらべる」

東京都北部を中心に食品スーパー「スーパーみらべる」を15店舗展開しております。地域に密着した店舗運営を行い、生鮮品を中心にリーズナブルな価格で販売しております。スーパーみらべるが当社グループ入りすることで、東京都北部の店舗網の拡充、商品調達や販売ノウハウにおいてシナジー効果を発揮してまいります。

(e)有限会社JM青果が運営する青果仲卸事業

JM青果は、茨城県水戸市で青果仲卸事業を営んでおります。当社グループの青果部門の商品調達をバックアップすることにより、青果物の鮮度・価格・品揃えの強化と、商品の安定供給に寄与しております。

(f)株式会社柳田商店が運営する米穀小売業

柳田商店は、茨城県東茨城郡で米穀小売業を営んでおります。当社グループで販売するお米の品質・価格・品揃えをさらに強化できることで安定調達に繋がり、販売数量の増加に寄与しております。

店舗の状況としましては、2024年3月に「肉のハナマサPLUS」成増店（東京都板橋区）を開店いたしました。また、2023年12月に「スーパーみらべる」東日暮里店（東京都荒川区）を閉店しました。

これにより、当第3四半期連結累計期間末時点におけるスーパーマーケット事業の店舗数は106店舗になりました。

当第3四半期連結累計期間におけるスーパーマーケット事業の経営成績につきましては、売上高は126,058百万円と前年同四半期に比べ15,818百万円（14.3%）の増収、セグメント利益(営業利益)は7,047百万円と前年同四半期と比べ1,852百万円（35.7%）の増益となりました。

(その他)

その他の事業につきましては、外食事業、イベント関連事業、アウトソーシング事業、施設運営管理事業で構成されております。

(a)株式会社ジャパンデリカが運営する外食事業「漫遊亭」

外食事業につきましては、主に「焼肉や漫遊亭」を展開しております。得意とする精肉の調達力、ノウハウを活かし、新鮮で高品質な料理を安価でご提供するよう努めてまいりました。また、美味しい商品と快適な食事空間を提供するという基本方針のもと、新メニューの開発をすすめ、他店との差別化を図り、お客様が楽しく食事ができる店づくりに努めております。

店舗の状況としまして、2023年11月に「焼肉や漫遊亭」宇都宮店（栃木県宇都宮市）を開店いたしました。これにより、当第3四半期連結累計期間末時点における外食事業の店舗数は18店舗になりました。

(b) AATJ株式会社が展開する「肉フェス」などのイベント関連事業

イベント関連事業につきましては、「肉フェス」など食に関わるイベントの展開、国内外のイベント制作、運営などを行っております。当第3四半期連結累計期間の活動状況といたしまして、「肉フェス2024WorldセレクションTOKYO」（東京都江東区）を開催いたしました。今後も食肉及び地域の食文化の魅力を発信してまいります。

(c)株式会社アクティブマーケティングシステムが展開するアウトソーシング事業

アウトソーシング事業につきましては、スーパーマーケット業界における、レジ業務の受託代行サービスを行っております。スーパーマーケットの実務経験に基づいた独自のノウハウによって、顧客のニーズに応える質の高いサービスを提供してまいります。

(d)株式会社ニコモールが運営管理するショッピングセンター「ニコモール」

施設運営管理事業につきましては、群馬県太田市のショッピングセンター「ニコモール」の運営管理を行っております。「ニコモール」には株式会社ジャパンミートが運営しておりますジャパンミート生鮮館新店をはじめとした36の専門テナントが出店しており、地域の方に欠かせない生活のインフラとしてご愛顧いただいております。

当第3四半期連結累計期間におけるその他事業の経営成績につきましては、売上高は5,197百万円と前年同四

半期と比べ374百万円(7.8%)の増収、セグメント利益(営業利益)は415百万円と前年同四半期に比べ2百万円(0.5%)の減益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度と比べ4,293百万円増加し、69,864百万円となりました。流動資産は4,290百万円、固定資産は2百万円増加しております。主な要因は、売上増加による現預金の増加4,010百万円、減価償却を含む有形固定資産の減少156百万円、のれんの償却を含む無形固定資産の減少296百万円、投資その他の資産の増加455百万円によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度と比べ1,192百万円増加し、27,347百万円となりました。主な要因は、流動負債の増加1,718百万円の方、長期借入金の返済を含む固定負債の減少525百万円によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度と比べ3,100百万円増加し、42,516百万円となりました。主な要因は親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等による利益剰余金の増加2,888百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、2023年9月12日付で発表の「2023年7月期 決算短信」の記載から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,810	21,821
売掛金	3,448	3,539
棚卸資産	7,260	8,094
その他	3,290	2,645
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	31,808	36,098
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	14,924	14,518
その他（純額）	8,307	8,557
有形固定資産合計	23,231	23,075
無形固定資産		
のれん	1,756	1,539
その他	867	789
無形固定資産合計	2,624	2,328
投資その他の資産		
敷金及び保証金	5,188	5,164
その他	2,731	3,210
貸倒引当金	△13	△13
投資その他の資産合計	7,906	8,361
固定資産合計	33,762	33,765
資産合計	65,571	69,864

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年4月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	8,066	9,342
短期借入金	3,536	3,353
1年内返済予定の長期借入金	771	696
未払法人税等	1,504	2,136
賞与引当金	406	227
その他	4,679	4,926
流動負債合計	18,964	20,682
固定負債		
長期借入金	4,320	3,799
退職給付に係る負債	663	702
資産除去債務	637	638
その他	1,568	1,524
固定負債合計	7,190	6,664
負債合計	26,154	27,347
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,229	2,229
資本剰余金	2,377	2,377
利益剰余金	34,275	37,164
自己株式	△0	△1
株主資本合計	38,881	41,770
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	168	348
退職給付に係る調整累計額	△19	△16
その他の包括利益累計額合計	149	332
非支配株主持分	385	413
純資産合計	39,416	42,516
負債純資産合計	65,571	69,864

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年4月30日)
売上高	113,298	129,378
売上原価	81,175	92,322
売上総利益	32,122	37,055
販売費及び一般管理費	26,516	29,614
営業利益	5,606	7,441
営業外収益		
受取ロイヤリティー	15	15
受取手数料	9	81
助成金収入	83	—
その他	76	101
営業外収益合計	185	198
営業外費用		
支払利息	27	31
その他	20	9
営業外費用合計	47	41
経常利益	5,743	7,599
特別利益		
負ののれん発生益	202	—
特別利益合計	202	—
特別損失		
減損損失	—	170
固定資産除売却損	27	—
特別損失合計	27	170
税金等調整前四半期純利益	5,919	7,428
法人税、住民税及び事業税	2,662	3,559
法人税等調整額	147	△115
法人税等合計	2,809	3,444
四半期純利益	3,109	3,984
非支配株主に帰属する四半期純利益	33	28
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,076	3,956

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年4月30日)
四半期純利益	3,109	3,984
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	55	180
退職給付に係る調整額	2	3
その他の包括利益合計	58	183
四半期包括利益	3,168	4,167
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,134	4,139
非支配株主に係る四半期包括利益	33	28

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年8月1日 至 2023年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	スーパー マーケット事業				
売上高					
外部顧客への売上高	109,659	3,638	113,298	—	113,298
セグメント間の内部売上高 又は振替高	580	1,184	1,764	△1,764	—
計	110,240	4,822	115,063	△1,764	113,298
セグメント利益	5,194	418	5,612	△6	5,606

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外食事業、イベント関連事業、アウトソーシング事業、施設運営管理事業を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△6百万円は、セグメント間取引消去額723百万円及び全社費用729百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「スーパーマーケット事業」のセグメントにおいて、株式会社スーパーみらべるの株式を取得し連結子会社としたことにより、のれんが1,051百万円増加しております。

なお、前第3四半期連結累計期間において当該のれんの金額は、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額1,438百万円でありましたが、前連結会計年度末に確定しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年8月1日 至 2024年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	スーパー マーケット事業				
売上高					
外部顧客への売上高	125,458	3,919	129,378	—	129,378
セグメント間の内部売上高 又は振替高	599	1,277	1,877	△1,877	—
計	126,058	5,197	131,256	△1,877	129,378
セグメント利益	7,047	415	7,462	△21	7,441

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外食事業、イベント関連事業、アウトソーシング事業、施設運営管理事業を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△21百万円は、セグメント間取引消去額744百万円及び全社費用765百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
4. 前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の見直しが反映された後の金額を記載しております。